

令和 6 年度 県立総和工業高等学校自己評価表

目指す学校像	1 校訓である「智和憤」と「ものづくりは人づくり」を教育活動の基盤とし、心身ともに健康で、豊かな人間性を育てるとともに、確かな技術力と企業が求める「社会人基礎力」を身につけた優秀な工業技術者を育成する学校。 2 圏央道沿線の工業団地の発展に貢献できる人材を育成する、地域に根差した工業高校。 3 全教職員が資質向上に努め、魅力ある教育活動を推進し、生徒、保護者及び地域社会から確かな信頼を寄せられる学校。		
	三つの方針	具体的目標	
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> 校訓である「智和憤」と「ものづくりは人づくり」を教育活動の基盤とし、心身ともに健康で豊かな人間性を育てるとともに、確かな技術力と企業が求める「社会人基礎力」を身につけた優秀な工業技術者を育成する。 地域に根差した工業高校を目指し、地域社会の発展に貢献できる人材を育成する。 	
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> 多様な学習ニーズに応じた教育課程の実施により、就職から大学進学までの進路希望の実現。 系統的・組織的なキャリア教育を推進し、企業及び大学との連携を図り、望ましい勤労観や職業観を養うとともに、進路意識の高揚を目指し社会の変化に対応できる力をもつ生徒の育成。 	
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> 基礎基本を重視して「確かな学力」、「生きて働く知識・技能」を確実に習得し、「工業技術者として必要な思考力・判断力・表現力」を身につける努力をする生徒。 工業の基礎的・実践的技術を習得し、各種資格取得やものづくりに真摯に取り組む生徒。 自己の進路実現を目指し、日々努力する生徒。 	
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<ul style="list-style-type: none"> 地域企業と連携したインターンシップの実施や1、2学年の各学科実習及び3学年の課題研究など工業の専門教育を中心とした教育活動を展開している。出前授業の再開、復活した地域イベントの参加など、生徒の発表の機会も戻りつつある。機会をとらえ、地域社会との連携のあり方を模索し、生徒が活躍し、自己有用感を感じる機会を増加させることが課題である。 教科毎の継続的な学習支援により、学習意欲の維持に努めている。生徒による授業評価は職員の平均で3.2である。生徒の興味関心を高めるために、ICT等の利活用の促進により、授業改善につなげ、生徒の学習意欲の向上を図ることが課題である。 問題行動や交通事故の未然防止や早期発見に努め、生徒への継続的な働きかけにより交通安 	学習意欲を高める授業・実習の指導改善	①基礎的・基本的な内容を重視し、確かな学力の定着を図る。 ②観点別評価を生かして、授業改善を図り、主体的・対話的で深い学びを推進する。 ③ものづくり教育を推進し、専門的な知識や技術の習得により、資格取得につなげる。 ④ICT機器の利活用を促進し、「協同的な学び」を推進する。 ⑤生徒による授業評価において、授業満足度の平均点を3.2以上とする。	B
	道徳教育の推進と基本的生活習慣の確立	⑥規範意識の涵養を図り、基本的生活習慣を身につけさせる。 ⑦道徳教育やいじめ防止対策を推進し、問題行動等の未然防止を図る。 ⑧交通安全ルールやマナーの徹底を図り、交通事故防止に努める。	B
	健康や体力を育み学校全体の活性化	⑨特別活動や部活動等において生徒の自主的活動を充実させ、生徒の主体性を育む。 ⑩学校行事における体験的活動等を通して生徒の協調性、協働性を育成し、学校全体の活性化を図る。	B
	社会の変化に対応した生きる力の育成	⑪キャリア教育を推進して勤労観・職業観の育成を図り、進路希望の実現を目指す。	B

別紙様式 2 (高)

全と規範意識を向上させることが課題である。 ・令和 5 年度卒業生の進路状況は就職者の割合が約 6 割で、大学進学者は 10 名であった。一昨年度よりインターンシップを再開し、古河市、古河市工業会見学会等も実施した。地域との連携を今後も強化し継続できるかが課題。 ・資格指導について、講習会等の充実を図り、国家資格、国家検定の取得者をはじめ生徒の資格取得に努めた。 ・部活動加入率は減少傾向にあり、職員の勤務形態、働き方改革をふまえ、部活動の精選も視野にあり方について検討することが課題である。			⑫企業見学会、インターンシップ及びガイダンスを充実させ、生徒の主体的な進路選択を支援する。	
P T A 活動の活性化と地域社会との連携			⑬ P T A 活動の活性化のため、保護者との連携と行事の工夫改善を推進する。 ⑭ 地域イベントへの出展や出前授業などを積極的に展開し、本校の特色を生かした、地域社会との連携を推進する。	A
働き方改革の推進			⑮ 業務の精選及び効率化を推進し、教育活動の充実を図る。	B
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
教務部	基礎学力の定着を図る。	基礎的・基本的な知識や技能・考え方を重視した授業を展開し、能力の向上を図る。①②⑤	B	【課題】 ・基礎学力定着のための教科間連携 ・遠隔授業に対応可能な I C T を活用した授業展開 【取組の方向性】 ・各教科における学習状況の共有 ・ I C T 機器の整備及び操作や活用方法のマニュアル化
		I C T を積極的に活用し、興味関心を引き出す学習活動を行う。①④	B	
		基礎学力診断テストを活用し、指導改善及び学習の改善を進める。①	B	
	生徒の就学を支援する。	就学支援のため奨学金に関する情報を提供する。⑫	A	
		授業時間の確保に努める。	特別時間割において、各科目の授業を編成できるよう努める。①	
	出張等の授業振替を徹底し、授業時間を確保する。①		B	
情報管理部	I C T の活用による業務改善	ペーパーレス化の推進と I C T 環境を整える。④	B	【課題】 ・ I C T 機器や備品ケーブルの断線などの経年劣化 ・ I C T 活用が苦手な教員の利用促進 【取組の方向性】 ・メンテナンスの実施 ・ I C T 機器活用方法の周知と研修の拡充
		⑮ WiFi 接続範囲を広げ、校内での WiFi 環境を整える。④	B	
	備品の補充及びメンテナンス	G I G A スクール構想から 4 年目、備品の保全や補充を充実させる。④	B	
	サーバー管理の在り方	校内サーバーの管理及び維持、アクセス方法についての変更④	A	
	I C T 機器講習会による教員のスキルアップ	電子黒板やネットワークについての講習会を実施していく。②④	B	
生徒指導部	自己の規範意識、基本的な生活習慣や社会のルールを受け入れ、それらを表現できる生徒を育成する。	朝の立哨指導を実施し、生徒の実態把握に努める。遅刻届の運用を整理し、遅刻者の減少を推進する。また、昼休みの校内巡視及び毎月の頭髪服装検査等を全職員共通理解のもとで実施する。生徒指導相談員の助言を受け、問題行動の未然防止や早期発見・早期対応に努める。⑥⑦⑧	B	B

別紙様式 2 (高)

		授業や他の関係分掌との連携した行事の実施により、道徳心や考え方を育み、社会の一員として自覚のある心身を養う。①⑥⑦	B	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻する生徒が固定化 人間関係で課題を抱える生徒への対応 【取組の方向性】 全職員で生徒指導、支援にあたるという意識及び具体的方法の再確認 継続的な交通安全指導
		学期毎のマナーアップ週間で、生徒会によるあいさつ運動やマナーアップキャンペーンに参加することでマナーの向上や地域の貢献に努める。⑥⑧	A	
		毎月のいじめ対策会議で生徒に関する情報を共有し、保護者と密に連携を取りながら、いじめ問題、問題行動等の未然防止に努める。⑥⑦	C	
		スマートフォンや SNS の安全利用について、生徒、保護者の意識を高めるための講演会や日頃から他人が嫌がる使い方をしない教育をし、安全教育を推進する。⑥⑦	B	
	交通安全教育の充実と 交通マナーの向上、交通事故の未然防止を図る。	交通安全教室を学年毎に実施し、危険察知力を養い交通ルールの知識理解をさせることで交通事故の減少に努める。⑥⑧	B	
		学期毎に、自転車・バイク点検およびマナーアップ週間等の登下校指導により、交通安全意識の向上を図る。⑥⑧	B	
	職員間の連携を図る。	生徒情報を共有し、複数の教職員で生徒を支援する。⑥⑦	B	
進路指導部	進路意識の向上を図る。	各学年と連携して進路ガイダンスを実施し、生徒の希望進路実現に役立てる。⑨	A	<ul style="list-style-type: none"> 【課題】 進路実現のための生徒の主体性への働きかけ 社会人として求められるコミュニケーション力の育成 ICTによる業務効率化 【取組の方向性】 学年職員とのコミュニケーション・連携を円滑にし、課題の共有とスピード感のある改善 学年、担任のそれぞれが積極的に進路指導を行える体制作り
		進路実績等を公開して保護者や生徒とデータを共有し、進路意識の向上に役立てる。⑨	A	
	進路選択を確かなものにする。	意識調査・適性検査を実施し、客観的な自己評価を通して進路選択に役立てる。①⑩	A	
		オープンキャンパス等への積極的な参加により、各自に合った進学を実現させる。⑩	B	
	職業観・勤労観を育成する。	生徒による希望進学先・希望就職先についての事前研究を徹底させる。⑩	B	
		工場見学及びインターンシップを通してより確かな職業観・勤労観を育成する。⑨⑩	B	
希望進路実現のためのサポート体制を整える。	生徒への面接指導の充実のために、業者を利用して職員の研修を計画する。⑨⑬	B		
	提出書類作成における留意点の周知徹底及び IT 利用による利便性の向上に努める。⑬	A		
特別活動部	部活動の活性化を図る。	部活動紹介及び勧誘を積極的に行い、部活動運営方針の改定を考慮し練習の効率化をはかり企業のニーズに合う社会性を育成するよう努める。⑥⑦⑨⑩	B	<ul style="list-style-type: none"> 【課題】 生徒が主体的に参加・運営できる学校行事の実施 部内業務の偏重 キャリア・パスポートの効果的な活用 【取組の方向性】
	生徒会活動・学校行事の活性化を図る。	生徒会役員が主体的に始動できるよう促し、各クラス及び専門委員会と連携を図り、学校行事をとおして、よりよい学校生活を送れるよう工夫・改善に努める。⑨⑩	A	
	各生徒会専門員会の活動の向上を図る。	生徒会が中心となり各委員会が十分な機能を果たすよう努める。⑦⑨⑩	B	

別紙様式 2 (高)

	奉仕活動・ボランティア活動等の推進を図る。	総工版キャリア・パスポートを用いて、奉仕作業及び体験学習やボランティア活動等の意識の向上や活動の推進を図り、生徒自身が有用感をもてるように努める。⑩	B		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の声による学校行事の企画・運営 ・業務内容の精査・整理 ・キャリア・パスポートの積極的活用法の研究
図書視聴覚部	図書館の利用促進と活性化、環境を図る。	個人のタブレット等を活用し、蔵書検索ができるようにし、図書館利用の活性化を図る。③④⑧	B	B	【課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・図書館生徒用端末の更新 ・検索環境の改善 【取組の方向性】 <ul style="list-style-type: none"> ・ICT環境の改善
		「図書館だより」を刊行して、生徒の読書意欲を向上させ、読書習慣の定着と生徒が図書館へ足を運ぶようにする。⑥⑨⑩	B		
	視聴覚室の環境の改善を図る。	視聴覚室利用の円滑化を図る。①⑧	A		
保健厚生部	心身の健康指導に努め、生徒の基本的生活習慣の確立する。	健康診断をとおり、生徒の健康管理に努め、基本的生活習慣を確立させる。⑥	B	B	【課題】 校舎・教室環境の改善 【取組の方向性】 <ul style="list-style-type: none"> ・校内施設設備の定期的な点検の実施 ・環境整備、美化の取組の周知と実践
		手洗い・換気を励行し感染症の予防に努める。⑩	B		
	学習環境の整備を図る。	敷地内の施設の整備と美化を推進し、安全・安心な生活環境を確保する。⑩	B		
		生徒がエアコン・扇風機・ストーブなどを適切に使用できるよう管理する。⑩	B		
	防災教育の充実を図る。	防災避難訓練をとおり、生徒の防災意識を育む安全教育を推進する。⑦	B		
教育相談体制を確立する。	年 29 回のカウンセラーを有効に活用し、生徒の精神的ケアを行う。⑦	A			
渉外部	PTA 行事の参加率向上を図る。	PTA 総会、支部別 P T A の内容を検討し、参加率の向上を図る。⑬	B	B	【課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・PTA 組織、支部のスリム化 【取組の方向性】 <ul style="list-style-type: none"> ・支部の統合により生徒数減少に対応
	PTA 研修会の充実を図る。	各支部の支部長と連絡を密にして、具体的な実施内容の充実を図る。⑬	B		
	ICT の活用を促進する。	保護者への連絡を徹底するための ICT による情報伝達を図る。⑬	B		
第 1 学年	挨拶、身だしなみ（頭髪、服装）、時間厳守などの基本的生活習慣を身につけさせる。	学校生活の中でルールや基本的生活習慣の大切さを学ばせる。⑥⑦	B	B	【課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・制服の着こなしの定着 ・多欠席者への対応 ・意欲的な学習への取組姿勢 【取組の方向性】 <ul style="list-style-type: none"> ・面談の継続的な実施により生徒への働き掛けを強化
		積極的に資格取得へ取り組む姿勢を促す。③④	B		
		個々に学校生活する中で目標を持たせる。⑨	B		
	基礎学力の向上を目標とし個々の生徒達の学力、やる気を引き出して生徒の学力底上げを充実させる。	進路指導を充実させ、就職、進学に対する意識づけをする。⑨⑩	B		
		今日の学校での授業に対する復習することの大切さを教える。①	B		
	専門教科に関する基礎学力の底上げを図る。①③④	B			
第 2 学年	基本的生活習慣を確立し、社会人としてのマナーを守れる生徒の育成を図る。	集団生活の中での基本的生活習慣の大切さを理解させ人間関係を学ばせる。①④	B	A	【課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・基本的生活習慣の確立 ・基礎学力向上のための学習する習慣の定着 【取組の方向性】 <ul style="list-style-type: none"> ・面談による遅刻等の指導の積
		挨拶、身だしなみ、時間厳守の大切さを学校内外学習のなかで理解させる。④⑥	A		
	基礎学力の向上と資格取得への支援体制を強化する。	普通教科に対する基礎学力の向上と苦手意識ある教科の取り組み方を充実させる。①③	B		
		各科の生徒が資格取得に積極的に取り組めるように補講、講習会などを含めて教員側で充実させる。③	A		

別紙様式 2 (高)

	各個人の進路に対して意識させ、充実した学校生活を送らせる。	生徒が自分の進路に迷わないように、早くから自分の進路について取り組めるように、進路ガイダンスや企業見学会を開き理解させる。 ⑩⑬	A		み重ね ・基礎学力向上に向けて放課後等の課外学習で、振り返り学習で補充
第3学年	進路指導の充実を図る。	個別面談を複数回実施し、個々の進路の実現を図る。 ①⑨	B	B	【課題】 ・希望進路が決めきれず、対応が遅れる生徒への支援 ・進路内定後の目的意識の維持 【取組の方向性】 ・個別の面談及び学年間で情報共有し、協力体制を確立
		進路試験の対策補習と面接練習を計画的に実施する。 ⑩⑫	B		
	基礎学力の向上を図る。	自身の進路に照らして学習に専念する姿勢を育てる。 ①③	B		
		基礎的内容の反復を行い基礎学力の定着を図る。 ②④⑩	B		
基本的生活習慣の定着を図る。	ルールの大切さを理解させ、社会人として求められる生活習慣の徹底を図る。 ⑥⑦⑧	A			
機械科	基礎・基本の指導の徹底を行い特に技術力の向上を目指す。	実習や授業を通して、基礎・基本をしっかり身につけさせる。また、ものづくりの面白さを体験させるとともに、企業が必要とする工業についての確かな技術を有する人材を育成する。 ①③⑩	A	B	【課題】 ・望ましい職業観・勤労観の育成 ・継続した地域へのPR 【取組の方向性】 ・インターンシップの推進。卒業生との交流会等を企画する。 ・学校全体で、工業高校を地域へアピールする体制の確立
		企業の求める人材を育成するため、インターンシップに参加させる。 ⑨⑩	B		
	勤労観・職業観の育成を図る。	課題研究を通して、課題解決能力や学習への達成感・達成感を体得させる。また、発表会を行いプレゼンテーション能力の向上を図る。 ②③④	B		
		個に応じた指導を行い、合格率向上を図る。 ①②③	A		
	資格取得指導の充実を図る。	資格取得を継続的にを行い、生徒の進路実現に向けた支援を行う。 ③⑪⑭	B		
		地域イベントに積極的に参加し、本校をPRするとともに参加生徒の積極性や社会性を育成する。 ⑩⑫⑭	B		
地域との連携を強化する。	出前授業を通して、地域との連携を図る。 ⑨⑫	A			
電子機械科	基礎・基本の徹底と個別指導による学力の向上を目指す。	きめ細やかな指導を行い、基礎的基本的な理論の定着を図る。 ①	B	B	【課題】 ・専門的な知識や技能の定着 ・危険予知能力の向上 ・資格取得に対する意欲の向上 【取組の方向性】 ・座学と実習の適切な連動 ・実習室の整備・清掃・整頓 ・資格取得の学習を通して職業観の育成
		知識の理解度や計算能力の習熟度を把握し、個に応じた授業展開に努める。 ①②	A		
		座学と実習を連携させることで、理論と実際の事象の関連をわかりやすく説明し、理解を深める。 ①②	A		
	資格取得指導の一層の充実を図る。	学科に関連する資格の情報を提供し職業感を持たせ、適性に応じた資格取得に対する意欲の高揚を図る。 ③	B		
		資格取得に向けて個に応じた指導を行い、充実を図る。 ②③	B		
	安全の確保や事故の防止に努める。	事故を未然に防ぐための安全教育を実施し、安全管理の徹底に努める。 ⑥	B		
電気科	基礎・基本の指導徹底を図る。	基礎学力の定着を図るよう、繰り返し学習に力を入れる。 ①	A	A	【課題】 ・効果的、効率的に指導するため、座学・実習・資格指導の連動 ・専門的職業に関して、学外の説
		「ものづくり」の基本を学び、適切な教材の作成に努める。 ③	A		
	生徒の希望進路の実現を図る。	実習や授業を通して、個人の目的意識や適性を考え、目標を達成するよう支援する。 ①②⑪	B		
	資格取得指導の充実を図る。	生徒一人一人の進路希望、適性に応じた資格を取得出来るよう、指導に重点をおく。 ③	A		

別紙様式 2 (高)

		指導方法や教材の見直しを図り、効率の良い資格取得のあり方を検討する。 ③⑬	A		明会や見学会の効果的な活用 【取組の方向性】 ・年間指導計画の見直し ・外部講師の講演等の活用
	基本的な生活習慣の確立を図る。	実習などの少人数授業を活用し、生徒との関わりを通して、基本的な生活習慣について指導の充実を図る。 ⑥⑦	B		
国語科	基礎学力の向上および言語能力を育成する。	音読を通して、様々な文章に接する中で、正確な読みができるようにする。 ①②	A	B	【課題】 ・目的意識を持たずにいる生徒への指導方法の検討 ・読解力や適切な表現力の向上 【取組の方向性】 ・学習の目的や目標を明確に伝え意欲の向上につなげる。 ・漢字や語句、作文指導を通して語彙力を高める。 ・ICTを活用する。
		語彙力を高め、思考力・判断力・表現力を培う。 ①②	B		
	伝え合う力を育成する。	場を意識した話し方を身に付けさせ、適切なコミュニケーションを図るための話す力・聞く力を鍛える。 ①②	B		
		ICTを活用して教材や情報を共有し、様々な表現方法を身に付けさせる。 ②④	B		
主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図る。	個々の到達度を把握し、内容や方法を検討して学習意欲を喚起させるように努める。 ②⑤	B			
	実社会で生きてはたらく力を身に付けさせるための授業改善を図る。 ②⑤	A			
地歴・公民科	社会的な事象に関する興味・関心を高める。	生徒が効果的にICT機器を活用した授業を構想し、展開する。 ④	B	B	【課題】 ・ICT機器を効果的に活用できる場面の設定 ・学び直しと振り返りを活かした基礎的知識の定着と社会的な事象の関連を通じた確かな学力の育成 【取組の方向性】 ・他教科とICT機器の活用について事例共有と他校の活用事例の研究 ・生徒が知識の定着を実感できる振り返り方の構想
		具体的事例や時事問題を取り上げるなど、わかりやすい授業の展開、工夫に努める。 ④	A		
	わかりやすい授業を展開し、社会に関する基礎的な知識を主体的に身につけさせる。	生徒が主体的に学ぶことができるように魅力的な教材の開発を積極的に行う。 ②④	A		
		生徒が知識の定着を実感できるように考査後の振り返りはもちろん、各授業においても積極的に振り返りを行う。 ①②④	B		
数学科	基礎的な計算力をつける。	基礎的な計算練習の機会を確保する。 ①	A	B	【課題】 ・知識や技能の定着に向けた指導方法の研究 【取組の方向性】 ・生徒個々に対応する形で引き続き補習を実施
		課外や補習で指導の充実を図る。特に、考査ごとに必ず補習を実施し、欠点保持者を出さない。 ①②	B		
	数学的思考力をつける。	ICT機器を利用し、生徒自らが思考できる環境を充実させる。 ②④⑤	A		
		学習内容を(可能なものは)工業に関連付け、数学を実践的に利用する思考力を育む。③	B		
理科	理科への興味関心を高める。	身近な話題や工業科目との関連を意識した題材を取り上げ、興味・関心を高める。 ①	B	B	【課題】 ・実験室の整備 ・ICT活用の教材研究 ・工業科との連携
		授業態度や課題提出の指導を強化し、授業に臨む意識や態度の向上を図る。 ①②	A		
	学習に向かう姿勢を育成する。	「科学と人間生活」においては、科学的な一般常識の修得に重きをおいた展開する。 ①	B		
		工業科と連携し、工業系資格の合格者数の増加を目指す。 ③	B		

別紙様式 2 (高)

	基本的な知識の確実な定着を図る。	基本的な法則や公式の確実な修得に重きをおいた授業を展開する。 ①	A	【取組の方向性】 ・器具、設備ともに活用できるように実験室を整備 ・新しい I C T を利用できるソフトの研修 ・工業科専門科目と連携した教科を横断した授業展開
		Google フォームを活用し生徒の理解度を確認しながら授業をすすめる。 ①	B	
	科学的思考力を養成する。	実験・観察や問題演習を通して、科学的に考える力や知識を活用する力を養わせる。 ①	C	
		成績不振の生徒には補習を定期的に行い学力の向上を図る。 ①	C	
保健体育科	規律指導の徹底を図る。	安全に授業を実施するためにも、規範意識の高揚を図る。特に、授業開始時刻を守ること、指定の体操着、シューズを正しく着用すること、施設や備品の使用ルールを守ることについては、毅然とした態度で接し規律の徹底を図る。 ①⑥	A	【課題】 ・運動に苦手意識のある生徒に対する指導の工夫 ・生徒数に合わせた適切な環境や場の設定 ・相対的な体力の向上 ・指導と評価の一体化、多様な評価方法と評価回数 【取組の方向性】 ・運動強度や技能レベルによる習熟度別での授業の実践 ・学級をまたいで複数の教員による授業展開 ・I C T を用いた課題で評価の機会を増やしていく。
		運動技能と体力の向上を図る。	自己の能力に応じた運動の課題に対し、適切な指導・アドバイスを行う。 ①②	
	自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育む。		各種競技に関連する運動を積極的に授業に取り入れ、生徒の体力レベルを昨年度以上にする。体力テストの結果を指標にし、A B C の合計の割合が 50% を超えるようにする。 ①	
		的確な思考・判断に基づいて適切な意志決定を行い行動選択ができるよう、保健の授業を通じさまざまな知識や情報を伝達し、理解を深めさせる。タブレット端末を用いた授業を展開する。 ①②④	B	
芸術科 (書道)	書写能力の向上を図り、基礎的な技術を身に付ける。	添削指導等の個々に応じた指導を積極的に行い、意欲的に取り組む姿勢を培うとともに、範書により基礎技術の習得に努める。 ①⑤	B	【課題】 ・技能や表現力を高める為の個に応じた効果的な指導。 【取組の方向性】 個々の適性を把握し指導を心掛ける。
		書の伝統と文化についての理解を深め、「心に響くことば」を題材に、身に付けた技術を自身の表現の構想と工夫に生かす。 ①④	B	
英語科	基礎学力の向上を図る。	授業への取り組みに対して意識を高め、基礎・基本を重視した指導に努める。 ①②	B	【課題】 ・英語に対する苦手意識や無力感、苦手意識から生じる意欲の低さを改善する指導法の研究 ・学校全体として授業規律を確保するための取り組み 【取組の方向性】 ・「よくわからないけど、よくできないけど、がんばる」という
		基礎的な事項を丁寧に説明し、確かな学力を身に付けさせる。 ①	B	
	授業内容の定着を図る。	定期的の問題演習を行い、学習達成状況や取り組みを確認する。 ①	B	
		ALT や I C T の活用を通して、興味・関心を高め、効果的に知識の定着を図る。 ①④	B	
	英語活用能力を養う。	生徒が四技能を活用する場面を設定し、総合的な英語運用能力を養う。 ①②	B	
授業の中で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る。 ①②	B			

別紙様式 2 (高)

					意識づけ ・授業中の規律を確保し、基礎基本の定着を図る。
家庭科	持続可能な社会をつくる暮らしの担い手を育てる。	衣生活に必要な知識を物資のサイクルを考えさせる。 ②④	B	B	【課題】 実習時間の確保 【取組の方向性】 事前準備の時間がとれず、年間計画の見直しが必要
		SDG s の観点から生活について考えさせる。 ②⑥	B		
	生涯を見通して、主体的に生きる力を育てる。	生活に必要な知識について、ワークシートを利用したブレインストーミングを行い考える機会をつくる。 ⑪	A		
		食生活の基礎について実習をとおして学ぶ。 ①②	A		
	ICTの活用を促進する。	デジタル教材の活用 ①④⑮	B		
		ミライタッチやクラスルームを活用する。 ①④⑮	B		

※ 評価規準：A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない